

職業リハ学会通信

NO.143 2015年 9月発行

学会
大会

日本職業リハビリテーション学会

第43回（東京）大会 ご協力ありがとうございました

会期：平成27年8月22日・23日 会場：大妻女子大学千代田キャンパス

台風が遠方より日本に針路向ける中、何とか天候にも恵まれ、8月22日（土）、23日（日）の2日間、東京都千代田区の大妻女子大学を会場に、日本職業リハビリテーション学会第43回大会が無事に開催されました。現場で働く方が参加しやすいよう、職リハ学会としては異例の週末開催とさせて頂きましたが、431名もの方々にご参加頂きました。全国各地からお越し下さいました皆様に、改めて御礼を申し上げます。

大会の幕開けは、厚生労働事務次官、村木厚子氏による基調講演「社会の中で働くことをあきらめない」。ここ十数年の厚生労働省の障害者雇用・就労支援施策について、その流れや狙い、背景にあるエピソード等をお話頂き、また就労支援に携わる人々に期待することとして貴重なメッセージを頂きました。障害者雇用、就労支援、職業リハビリテーション、それらの共通基盤である「働くことの意味」を確かめる貴重な時間となりました。

その後、「今一度、職業リハビリテーションの方法と技術を考える」をメインテーマとして大会実行委員が企画したワークショップ5本、学会主催ワークショップ「雇用の場における障害者の権利擁護」が同時に開催され、どの部屋も盛況のうちに、講義、ディスカッション、事例検討など様々な形で学びが進められました。夕方からの懇親会も、吹き抜けの大きな会場が130人もの参加者で埋まり、若手学会員の爽やかな司会の下、出会いと交流の輪が広がりました。

2日目の午前中は43本の口頭発表、16本のポスター発表。これは職リハ学会の歴史においても最大規模の発表数ではないかと思われます。様々な角度から職業リハビリテーションに関わる日頃の実践、研究の成果が報告され、熱心な意見交換が繰り広げられました。最後のシンポジウム「職業リハビリテーションの方法と技術～現場の専門性を高め、維持する方策を考える～」では、現場の実践者や学識経験者が様々な視点から、職業リハビリテーションの専門性が見え難くなっている現状について語り、これから成すべきことについて議論しました。すっきりした解決策を提示するには至りませんでした。数年ごとに現状を見つめ、課題を確認することが必要なテーマであると思われます。

閉会式では、学会大会奨励賞の受賞式が行われ、次回の京都大会へとバトンタッチがなされました。本大会では約30人の学生がボランティアとして大会の裏側を支えてくれていましたが、閉会式にて、参加者の皆様から大きなねぎらいの拍手を頂いたことは大変有り難く、嬉しいことでありました。

最後に、今大会の成功に向けてご協力頂いた全ての皆様、大会にご参加下さった皆様に、心より御礼を申し上げます。次回、京都大会でお会いできることを楽しみにしております。

第43回大会大会長 小川浩（大妻女子大学）

第43回学会大会報告	1P
2015年度会員総会報告	9P
委員会報告	18P
ブロック活動報告	19P
新入会員のお知らせ	21P